



『本 気 の 力』



福井県
敦賀市剣道スポーツ少年団
中学1年 中本 彗 翔

『本気になれば、世界が変わる。自分が変わる。本気の勉強、本気の剣道、本気の仕事。本気を目指すのだ。本気は、楽しいことである。』

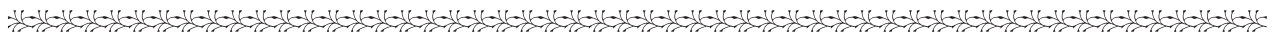
僕は中学に進学し、日々、幅広く知識を得る傍ら、小学時から続けてきた剣道にも励みながら、心身の修練に勤しんでいる。中学生活はまさに、“文武両道”を継続して実践することだと感じている。“文事ある者、必ず武備あり”文武は一方に偏らない、という精神の下、僕は少年団旗に掲げられたこの言葉を片時も忘れることなく、剣道による心身修練を通じて、想いを形にする術や、続けること、諦めないこと、そして克己心等を会得することができた。また、七月には、憧れの日本武道館で自分が体験し実践してきたことを多くの剣士に伝えることができ、確かな自信となった。中学生活はまだ始まったばかりだが、焦りや多忙は感じない。なぜなら、僕の土台には剣道があるからだ。剣道は、楽しい思い出や辛い思い出、流した汗も涙も、全てを包みこんでくれる。“心の軸”のような存在となった。剣道を通じて、心が強くなった。また、この六年間を振り返り、人の心ほど変わりやすく、不確かなものはない反面、心を鍛えれば鍛えるほどに、目指すべき心豊かな真の剣士の理想像が、少しずつではあるが具体的に描けるようになってきた。そして今、僕はこう思う。

真の剣士の精神を持つ人は、いつも、何事にも本気で挑戦する。「皆がこうだから自分も皆と同じようにやればよい」とか、「皆もそうだから自分もやれない」といった、安易に流されやすい人の心の部分をよく思案し、そして心穏やかに自制する。多くの人はそうであっても、自分は本気で道を歩もうと決心する。ぶらぶら過ごすよりも、勉強に励んだり、剣道をしている方が数倍も数十倍も楽しいことを知っており、自分の夢に向かって一歩ずつ前進することを心の底から楽しんでいる魅力的な人である。本気になることは、楽しいことであることを自然な形で身に付けているのである。

僕は、この様に具体的なイメージを抱きつつ、何事も本気で取り組むことの大切さを自覚し、いろんな場面で本気になりベストを尽くしてきた。ただ、僕にとっての本気とは、何か特別な事であったり、相当な覚悟が必要であったりと、どちらかという心働かない方に解釈をしていたかもしれない。ゆえに、後の展開まで続けることができず、色んな事で何度も頓挫し、そして、出発点に戻ってしまう事があった。

どうだろう、皆さんにも思い当たることはないだろうか。

中学生活が始まったとき、決心した事がある。まずは中学の三年間、本気で勉強をし、本気で剣道をしよう。中学生活、稽古、試合、交流会や少年団研修会等を通じて、これからも沢山の出会いが待っている。そこでは、単に中学生徒としての自覚のみならず、相手に最大限の礼を尽くす機会も沢山あるだろう。自分が理想とするイメージを心と体で表す実践のチャンス到来だ。だからこそ、三年ぐらい本気で通すことができなければこの先の困難に立ち向かうことが



できないのではないか。そして将来、本気でよい仕事ができる人になろう。ただ仕事をこなすだけではなく、剣道による心身の修練を通じて自得した思考力、判断力や表現力を活かして、周りから付き慕われ、リーダーシップを発揮できる人になろう。勉強も剣道も、やれば必ず伸びるのだ。目標を達成したときの喜びや楽しさは、剣道を続けてきた自分自身が一番よく分かっている。だから、伸び代を感じながら楽しんでいこう、と…

『本気になれば世界が変わる。自分が変わる。変わらなければ、本気になっていない証拠である。』

本気の勉強、本気の剣道、本気の仕事。これを掴まないことには、始まらない。

先生から教えていただいたこの言葉を一生忘れることなく、本気の力で前進あるのみだ。

僕は絶対に負けない。